

平成 30 年第 4 回二宮町議会定例会

# 所 信 表 明

本日開会されました平成 30 年第 4 回二宮町議会定例会の冒頭におきまして、私の 2 期目の町政運営に対する所信の一端と、施策の方向について、ご説明申し上げます。

初めに、議員の皆様方におかれましては、ご当選の栄を得られましたことを、心よりお祝い申し上げますとともに、今後 4 年間、町民の負託にこたえるご活躍を期待申し上げます。

私も、多くの町民の皆様からご支持とご信託をいただき、再び 4 年間の町政をお預かりさせていただくことになりました。引き続き二宮町のために尽力できることを、大変誇りに思うと同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。これまで、4 年間にわたり積み上げてまいりました成果を礎として、これからの厳しい時代を見据えながらも、新たな時代を切り開く覚悟をもって、町民の皆様、議員の皆様と一緒に二宮町の未来に向け、全身全霊で町政運営に取り組んでまいり所存でございますので、議員各位をはじめ、町民の皆様のご理解、ご協力を賜りたいと存じます。

また、改めて、これまで二宮町の発展にご尽力されてこられた多くの方々に敬意と感謝を申し上げます。

さて、我が国においては、人口減少・少子高齢化という大きな課題に対し、女性も男性も、若者も高齢者も、障がいのある方も、誰もがその能力を十分に発揮できる一億総活躍社会に向け、様々な取り組みを進めているところでありますが、人口減少自体が問題なのではなく、今までの右肩上がりの成長戦略から、急速な人口減少・少子高齢化という新たな局面を迎え、これまでの制度や事業が世の中の流れに合わなくなり、生活がしにくくなっていることが問題の根幹であると私は考えています。

そのような中で、地方においては、それぞれが地域の強みを活かし、新たな人の流れをつくり、地域の活性化を図るために、様々な施策を展開しているところです。

二宮町においても、第5次二宮町総合計画及び二宮町総合戦略に基づき、町の強みである豊かな自然環境や温暖な気候・歴史・文化など既にある魅力を再認識し、子育てがしやすい環境を整えることで、「住んで良かった」「住み続けたい」と思えるようなまちづくりを進めてきたところです。その結果のひとつとして、近年では、人口は減少しているものの、転入者数が転出者数を上回る転入超過の状況が続いており、一定の成果が出ているものと考えております。

本日の所信表明にあたり、この町に住んでいる町民の皆様が楽しく、幸せに暮らすためには、この町に何が必要なのかを第一に考え、選挙中に述べてまいりました私の施策をお伝えし、議員各位をはじめ、町民の皆様方のご理解とご協力をお願いするものです。

それでは、私が今後4年間の町政運営に臨むにあたり、取り組むべき6つの大きな柱をお示しさせていただきます。

はじめに、「安全・安心なまちづくりの拠点づくり」についてです。

近年、全国各地において発生し、甚大な被害が出ている自然災害について、二宮町においても、特に発生が危惧される大規模地震に対する備えを強化する必要があると考えております。

そのためにも、被災時における災害対策本部として機能する役場庁舎の整備について、後回しにすることはできないと判断しました。新庁舎については、ラディアン周辺への移転・建設を進めていきます。また、整備にあたっては、現在、教育委員会事務所や保健センターなどに行政機能が分散し、町民の皆様にご不便をおかけしていることから、集約化を図ることで、利便性や質の高いサービスの提供ができる、町民にとって利用しやすい庁舎を目指します。さらに、多くの方にご利用いただいているラディア

ンや図書館と連携して、町の新たな交流拠点となるような整備を進めていきます。

なお、新庁舎の整備につきましては、町民の皆様と活発な意見交換をしながら進めていきたいと考えておりますので、今後、まちづくり移動町長室や地域への説明会など、それぞれの段階において丁寧に説明をしながら、ご意見を伺う機会を設けていきたいと考えております。

2つ目として、「自然の中で安心できる子育て環境の充実」についてです。

子どもたちを取り巻く環境は、急速なスピードで変化しております。そのような時代の中で、たくましく生き抜ける力を育成するために、この町の強みを活かした豊かな自然を身近に感じられる環境の中で、楽しく安心して子育てができる体制を作り、子育てを地域と社会で応援できるまちづくりに取り組んでまいります。

すでに、保健センター内に子育て世代包括支援センター「にのはぐ」を設置し、妊娠から子育て期の各段階において「かかりつけ保健師」として、顔の見える関係性を築きながら、切れ目のない支援に取り組んでおりますが、今後は、現在実施している内容を充実させるとともに、福祉や医療の分野とも連携して、支援を必要とするお子さんに対する継続的な支援や子

育てに不安を感じている保護者が気軽に相談ができる体制の充実に努めることで、安心して子育てができる環境を整えてまいります。

また、「子どもとともに大人も楽しみ学べる場」としての東京大学果樹園跡地の活用や、ボール遊びができる公園の整備など、自然の中で楽しく子育てができるような整備を進めていきます。

3つ目として、「子ども・教師・保護者・地域の人々が共に学び育ちあう教育の充実」についてです。

我が国の15歳の学力は世界でもトップクラスであるといわれております。一方で、自らの能力に対して自信を持つことができず、今まで受けてきた教育が将来に役立つと感じている子どもが少ないことも指摘されているところです。子どもたちの能力を最大限に引き出すためには、自発的に行動を起こせる環境を整えるとともに、計画的な教育への投資を行っていきます。

その一つとして、小中学校へインターネット環境の整備やタブレットの導入を進めるとともに、英語教育の充実や、論理的思考力や創造性、問題解決能力などを養うプログラミング教育の導入など、魅力ある教育環境づくりを進めます。また、記録的な猛暑が続く中、児童・生徒や教職員の健康を第一に考え、全ての小中学校の普通教室への空調設備の導入を進め、

学習環境の向上に努めます。

さらに、「地域とともにある学校づくり」を目指し、全小中学校にコミュニティ・スクールを導入し、学校や保護者、地域が連携した取り組みを加速させるとともに、次世代を担う児童・生徒が楽しく学び、豊かな人間関係を築いていくため、小中一貫教育のもと、適切な規模の学校を確保するための学校の再配置を行い、併せて、通学区域の変更についても進めていきます。

4つ目として、「ひとり暮らしを支える地域づくりの推進」についてです。

2015年の国勢調査では、子ども世代との同居の減少により80歳以上の女性と、未婚の50歳代の男性の一人暮らしが増加しているとの結果が出ています。

二宮町では、医療と介護が連携して高齢者の暮らしを支える「地域包括ケアシステム」の取り組みとして、すでに各地域が主体的に実施している「地域の通いの場」で、健康づくりや介護予防事業を実施するなど、地域とのネットワークづくりが進んでおります。超高齢化の時代を迎えるこれからは、気軽に出かけられる居場所づくりと、いざという時に支え合える人間関係が重要になってくることから、二宮型「地域包括ケアシステム」

を確立し、誰もが生き生きと暮らし、住み慣れた地域で自分らしい生活が続けることができる地域づくりを進めていきます。

5つ目として、「第2のふるさととしての町の魅力の発信強化」についてです。

定住人口を増加させることは重要な施策の一つではありますが、日本全体の人口が減少する中で、人口の奪い合いをするのではなく、町内に移住してくる「定住人口」や、吾妻山公園などに観光に来る「交流人口」とともに、今後は二宮町に継続的に関わりを持っていただけるような「関係人口」をさらに増やしていくことが大切であると考えます。

そのためには、この町の強みである、海や山などの豊かな自然環境や暮らしやすい良好な住環境を守り、魅力あるまちづくりを進めていきます。また、暮らしやすさがこの町の魅力であり、その暮らし方を「にのみやLife」として知ってもらい、「きみのふるさとになりたい」というキャッチフレーズとともに、町内外の多くの方に関心を持ってもらい、認知度をさらに高める効果的な情報発信をしていきます。

6つ目として、「持続可能で多様性を認める共生社会の推進」についてです。



この町には、様々な個性をもった住民の方がたくさんいますが、それぞれを認め合い、支えあうことで、町民の皆様が「響き合う」まちづくりを進めます。

そのためには、的確で効果的な情報発信を進めるとともに、今まで以上に現場に赴き、町民の皆様と顔の見える関係の中で、様々な意見交換をしながら、町民力の高い皆様と一体となった自治体運営に努めてまいります。

二宮町には、この町を大切に思うたくさんの「まちづくり応援団」がいます。町を大切に思う皆様と一緒に持続性のある町として、さらに発展していけるよう、着実に歩みを進めていき、子どもから高齢者まで住んでいるすべての方々が楽しく幸せに過ごせる町を目指していきます。

以上、本日は6つの分野における基本的な方針を述べさせていただきましたが、より具体的な施策などについては、年度当初の施政方針としてお示しさせていただきます。

施策を力強く進めるためにも、議員の皆様の格別のご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成30年12月17日

二宮町長 村田 邦子